

『一番知ってほしいこと』 ヨハネ3:1-17

- 3:1 パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。
- 3:2 この人が夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできはしません」。
- 3:3 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。
- 3:4 ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいって生れることができますでしょうか」。
- 3:5 イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」。
- 3:6 肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。
- 3:7 あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。
- 3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。
- 3:9 ニコデモはイエスに答えて言った、「どうして、そんなことがあり得ましょうか」。
- 3:10 イエスは彼に答えて言われた、「あなたはイスラエルの教師でありながら、これぐらいのことがわからないのか」。

●序論

クリスチャン哲学者ウィリアム・ジェームズの言葉。

「一度しか生まれたことのない人は二度死ぬ。しかし、二度生まれた人は、一度しか死なない。」

二度生まれた人とは、普通の誕生と、今日目を向けようとしている「新生」。つまり新しく生まれることの2つを指しています。

普通の肉体の誕生しか経験していない人は、肉体の死とともに、最後に永遠の死。つまり永遠の裁きを経験しなければならない。 それに対して、普通の肉体の誕生とともに、霊的誕生である新生を経験した人は、肉体の死を経験するだけで、最後の永遠の死は経験しない。

最後の裁きに合うかどうかを分けるのが、新生であるということです。

今日、イエスさまはこの新生を一番知ってほしいと、語っておられるのです。

●本論

I. 新しく生まれなければならない

3:2 この人が夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできはしません」。

ユダヤ人の中でもまた指導者の立場にあるニコデモが、人目を避けるように、夜にイエスさまのところへ来たということにでした。

そうまでしてイエス様に直接会い、話を聞こうとしてやってきたニコデモの姿には、真剣な求道の心があったことを思わずにはいられません。

その思いを鋭く捉えたイエスさまは、ニコデモの丁寧な、最大限の理解と賛辞の思いを込めた挨拶のあとすぐに、こう言われました。

3:3 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。

これが、最も大切なこと、知ってもらわなければならないことでした。

ニコデモは、このイエスの言葉を聞いて戸惑い質問を返します。

「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいって生れることができますか」(4)。

今、あきらかにニコデモがこれまで学び、そして、自ら教えてきた多くの教えとは違う言葉を耳にしていたのです。

今まで、律法の掟を一つも漏らさず守り通すこと。それが神の国につながる道だ…と教わり、また教えてきました。その成果がはかれると。しかし、そこにニコデモ自身、神の国に入る確信が得られないでいたのです。

律法に従おう、必要な掟を定め、まもり、そして聖く生きようと一生懸命すればするほど、自分自身のあらが目立つ。人と比べるならば、少しはマシ…でも、ほんとうにそれで大丈夫だろうか…と、いう不安です。

一般的によいと言われる世の中の標準は大切です。でもそれでは決して神の国には結ばれません。

イエス様は言われました。「新しくまねなければならない」と。そのことは、原語で「上から生まれなければならない」とも訳される言葉です。つまり神によって、新しく生まれることを強調します。

ここで、今日第一に、イエス様がニコデモに知らせた事柄。それは「新しくまねなければならない」ということです。

## Ⅱ. 経験と関係性を刷新する

改めて「新しく生まれる」ということが語られた時、それは非常に霊的なことを表しています。しかし、ニコデモには、それを肉体的な母親の胎を出る誕生としてしか聞き取れませんでした。

ニコデモがかかえる経験は律法で彩られ、自分たちがどれだけできたかの評価がありました。そしてその背景にある神さまとの関係性は、厳しい神様イメージが支配的でした。

そんな彼にイエスさまはあらためて語られます。

3:5 イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。

3:6 肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。

3:7 あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。

ここにイエス様がどうしても知ってもらいたいと願う、霊的な事実が語られているのです。

それは何よりも、人は人の力で救われたい、新しくされたい。ただ神さまの霊の働きによって新しくされ、新しく生きることができるといふことなのです。

人間の思惑や、人間の力ではない、神さまからの豊かな赦しと癒しの力が、人の救いをもたらします。

ニコデモにとって、そしてもしかしたら私たちにとっても、今まで握りしめてきた物を手放す迫りです。

自分の力ではなく、上からの、神さまの恵みの中で新しくされるという経験です。それを新しく生まれると示されているのです。

1:12-13 しかし、彼(イエス)を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。

### Ⅲ. 聖霊によって始まる

3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。

3:9 ニコデモはイエスに答えて言った、「どうして、そんなことがあり得ましようか」。

3:10 イエスは彼に答えて言われた、「あなたはイスラエルの教師でありながら、これぐらいのことがわからないのか。

神さまの恵み、その霊的な働きによる救いと神の国を語るイエス様と、その神の国を求めながら、宗教生活の熱心さと教え、自分の努力による救いを主張して生きてきた人の間に大きな溝があります。

神さまを求めながら、それが受け取れないでいる。

人の語る愛から神さまの無償の愛を測り切ることはできません。

この世から、神の国を測り切ることはできません。

この世の正義から、神さまの正義を測り切ることもできません。

それでもイエスさまは、あえてこう語ることで、ニコデモに霊的な感動を迫っています。

聖霊の働きが必要です。新しく生まれることが、わたしたちには必要なのです。伝道

者パウロはこんな風に言っています。

1コリント2:13

2:13 この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。

ニコデモであろうと、わたしたちであろうと、同じ、聖霊によって新しく生まれ、また聖霊によって聞く者とされることが一番大切なことなのです。

最後に)

「イエス様を信じるだけで救われる」というのがキリスト教が語る、新しく生まれるための霊的な真実です。

ヨハネ1:12 しかし、彼(イエス)を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

一方、信じるだけで救われるのであれば、苦労はない、それはまやかした…と思わせるのが、この世の経験、この世の標準でしょう。ニコデモはここにとどまっていた。

しかし、そのような閉ざされた目を、イエスさまは開くお方です。

ただではありません。イエスさまは人々のその目の前で、真実を尽くして、嘘も偽りもなくただただ真実を尽くして、人々を愛し続け、十字架に架かって死なれました。

しかもそれはわたしたちの罪のすべてを身代わりに背負っての処刑でした。

これほどはっきりとした神さまの愛の真実が、イエス様をみることを通してあらわされているのです。

それは、ただ神からの愛だけが真実、そしてこの愛こそが救いと言わしめるに十分な証です。そこではじめてわたしたちの目は霊的に大きく開かれるのです。そうして聖書は、この神の愛を明かしします。

3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

この方を救い主として信じて、神さまとの新しい経験と関係の中に入って生きる祝福を、何よりも大切に覚えていただきたい。これが、イエスさまがここで語る一番知ってほしいことなのです。